

佐治の板笠製作工程用具対応表（佐治歴史民俗資料館）

工程		道具		使用法等	
1	原木準備	※1月から2月下旬に行く。凍った雪の上で採取する。カンジキは使用しない。	わらじ		山で原木採取時に履く。
			つまご		山で原木採取時にわらじにかぶせ、足を保護する。
			はんばき (はばき・脚絆)		山で原木採取時に膝につけて膝を保護する。
			鋸		笠木の原木であるウリノキ、トウカエデ、サクラを切る。長さを測る。
			鉈		枝を払う。
			おいか		原木を運ぶ。
			背あて		原木を運ぶとき、背中にあてて、背を保護する。

工程		道具		使用法等
2	小割り	鉈		原木を割る。
		割り包丁		原木を割る。使用しない板笠師もいる。
		矢(くさび)		原木を割るために使う。
		木槌		鉈、割り包丁を叩き、原木を割る。
		指の保護具		割り包丁で原木をテープ状に裂くときに、指を保護する。
3	へぎ	割り包丁		小さく割ったり、厚みを揃える。

		工程	道具		使用法等
4	編み組み	本体づくり	笠編台		この上で編む。笠に丸みを持たせることができる。
			寸木		編み込みの寸法を計る。大きさに応じて、6寸1分(中判用)、7寸2分5厘(大判用)の寸木を使い分ける。
			ものさし		2尺。笠木の長さや笠の大きさを測る。
		頭づくり	笠包丁		桜皮の薄皮を剥がし、美しくする。頭の端を切り揃える。
		裾のまとめ	笠包丁		編み上がり、編み止めの後、笠木の端を切り揃える。片刃である。
		覆い(頭付け)	通し木(編み棒)		頭を本体につけるときに使用。
5	紐つけ		通し木(編み棒)		紐をつける紐を挿し込むときに使用。